

## Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け (3)

—書陵部蔵三条西家本・吉川史料館蔵青表紙本・

日本大学蔵三条西家本・蓬左文庫蔵三条西家本との比較を通して—

齊藤 鉄也

### 一 はじめに

本稿では、前稿 [8] [9] に引き続き、漢字と仮名の使い分けや仮名遣い、音便といった表記の相違を反映した本行本文のデータを用いて、計量的な処理のみで写本を分類した結果を報告する。調査対象とした『源氏物語』写本は、三条西実隆が関わったとされる室町時代書写の写本を中心とした、紅梅文庫旧蔵本（以下、紅梅本とする）[5]、書陵部蔵三条西家本（以下、書陵部本）、吉川史料館蔵青表紙本（以下、吉川本）、日本大学蔵三条西家本（以下、日大本）、蓬左文庫蔵三条西家本（以下、蓬左文庫本）、大正大本、池田本、大島本の全写本、室町時代に補写された保坂本十七写本、熊本大学教育学部所蔵本（以下、熊本本）のうち「蓬生」「若菜上」「総角」の、計四百四十五写本である。熊本本は、紅梅本と「夢浮橋」の奥書がほぼ一致し、調査した二十二写本において紅梅本と本文が類似することから、紅梅本の欠巻である「蓬生」「若菜上」「総角」の代用として選択している [12]。本調査は次の順序で行った。最初に本行本文の表記

異同に着目し、統計的分類方法を用いて、写本を分類した。次に写本間の親疎を測る尺度を提案し、それを用いて、各巻ごとの写本間関係を明らかにした。最後に、その結果に基づき、書写年代が指摘されている写本群と比較し、一揃えの写本間の関係を明らかにした。調査結果からは、大正本、書陵部本、吉川本が互いに表記異同が少ない関係にある写本が多いことと、紅梅本、日大本、蓬左文庫本が互いに表記異同が少ない関係にある写本が多いことを明らかにした。

## 二 本調査の目的と関連研究

本調査の目的は、計量文献学の方法を用いて、紅梅本の本文を他の源氏物語写本と比較し位置付けることである。計量文献学は、本文が持つ何らかの特徴や関係を数値に変換し、それに対して統計学の方法を適用する文献学の一領域である。本調査では、稿者が作成した写本の本行本文のデータから生成した断片文字列の頻度という数値に基づき、紅梅本と、紅梅本の奥書に記されている三条西実隆関わった(とされる)書陵部本、吉川本、日大本、蓬左文庫本を中心とした複数の源氏物語の本文と比較して、紅梅本の本文の相対的な位置付けを明らかにすることを試みた。

源氏物語写本の本文の調査は、作品が大規模であることに加えて、大量の写本が存在するため、その実施は困難が多い。これらの調査課題に関して、これまで稿者は、計量文献学の方法論を用いて、大量の本文を調査する課題に取り組んできた。前稿までの、紅梅本を中心とした本行本文の表記異同の調査結果 [8] [9] から、紅梅本は日大本との関係があることが明らかになった。本調査では、この調査結果を踏まえて、同じく三条西実隆関わったとされる吉川本と蓬左文庫本を加えて、紅梅本の本文の相対的な位置付けを明らかにすることを試みた。これまで、伝称筆者を含

む三条西実隆が関わった書陵部本、吉川本、日本本、蓬左文庫本の四種類の『源氏物語』は、推定を含む書写年代が指摘され、特定の巻の本文に対して調査が行われ、それらの関係が指摘されている[1][2]。一方で、紅梅本の本文調査はこれからの課題であり、三条西実隆が関わった『源氏物語』写本と紅梅本の関係や、書写年代が近いと考えられる大正本、室町時代に補写された保坂本の一部の巻との関係は未調査である。そこで、本調査では、紅梅本の位置付けを明らかにするために、前稿と同様の調査方法を用いて、吉川本と蓬左文庫本を加えて、再調査することとした。

これまで、源氏物語写本の本文分類は、校訂本文を対象とした本文異同に基づいて、定家(青表紙)本、河内本、別本群という二系統一群に分類されてきた。これに対して、本調査では、写本の本行本文を対象に表記異同に基づいた写本の本文分類を行う。本行本文の表記異同は、本文異同に加えて、漢字と仮名の使い分け、仮名遣い、音便、送り仮名により発生する。これらの表記異同は、写本の影印本や紙焼きを用いた調査が必要であることや、本文の意味に影響を与えないことから、これまで調査対象として取り上げられることが少なく、その調査報告も限られている[8][9]。その一方で、表記異同には写本の伝来過程の「痕跡」が残っている可能性も指摘され[3][4]、校訂本文を用いた分析とは異なり、伝来に関する知見を得られる可能性があると考えられることから、現存する写本を用いた表記異同の親疎を明らかにする調査が必要であろう。そこで、本調査では、近年、古典籍の影印本の出版や所蔵者によるインターネット上での画像公開の進展により[6]、本行本文の調査が相対的に容易になってきたことを利用し、表記異同に基づく本文分類を試みた。本調査の対象とした本行本文は、表記異同に加えて、誤写、虫損も反映されているため、本文に「傷」があり、意味や解釈を分析するためには適切ではないが、写本書写時の、校合や校訂される前の「基層」となる本文であるため、写本の伝来過程を分析するためには適している、と言える。

### 三 調査対象写本と本文データ

写本間の比較対象に用いた源氏物語の写本は、紅梅本の五十一写本と書陵部本の五十四写本、吉川本の五十四写本、日大本の五十三写本、蓬左文庫本の五十四写本、大正大学本の五十四写本、池田本の五十二写本、大島本の五十三写本、保坂本の十七写本、熊大本の三写本である。調査対象から本行本文データを作成する方法は、前稿[8][9]と同様であるので、ここでは概要を述べる。調査に用いた稿者が作成した本文データは、写本の本行本文を調査対象とし、傍記は対象としていない。本文データは、仮名と漢字、改行位置を写本と同一とする。一音で読む漢字は全て仮名と見做して仮名と漢字を区別している。漢字の異体字は通行化している。

本調査で用いた本文データを本稿末の表一にまとめた。前稿で調査済みの写本に関しては省略している。表一では、写本名と仮名と漢字の文字数、文字数に占める漢字の割合をまとめている。本文データの調査範囲はおおよそ五千文字程度を対象とした。五千字に満たない本文を持つ巻は全文を対象としている。本文の一部を調査対象としている巻に関しては、同じ巻の本文の同一の位置までを調査対象範囲とし、比較している。

本調査では、仮名と漢字の使い分け、仮名遣い、音便といった同義ではあるが異なる表記を持つ本文は相違と見做し、生成された本文の特徴を表すデータに反映される。つまり、表記の異同は本文の相違として扱われ、統計処理される。その結果、本調査で作成したデータを用いた分析の結果、本文が類似すると指摘できた場合は、本文に加えて、表記まで含めて近いことを示し、写本の本文間に何らかの関係があること、例えば、伝来過程において世代の近い写本関係がある可能性を指摘している、と言える。その一方で、本文系統の分類の際に重視される本文異同が、大量の表記の相違と比較して相対的に少数である場合は、その影響が小さくなり、『源氏物語大成』を用いた分類結果とは一

致しない可能性もある。

#### 四 表記異同の生成と分類方法の提案

本文の異同を調査対象とする場合、異同を集成することに加えて、何らかの方法を用いて分類し、その結果を可視化しなければ、その考察は困難であろう。本方法では、次の三段階に分けて、異同を生成、分類、考察することとした。最初に、本文データから一定文字数の断片文字列を生成する。この断片文字列は表記の異同を反映しているため、その頻度に基づいて、統計的分類方法を用い、本行本文の表記の点から写本間の親疎を可視化する。次に、その結果を提案する本文の類似性を示す尺度に基づいて、さらに細分化する。最後に、細分化された結果を(推定を含む)書写年代が指摘されている写本と比較し、調査対象とした写本の位置付けを明らかにすることを試みる。

#### 四・一 本行本文の表記異同の生成方法

本調査では、本行本文の持つ表記異同を、基準とする本文上の同一箇所における文字列の比較といった『源氏物語大成校異編』の方法を採用せず、本文から決まった手続きに基づいて機械的に生成可能な断片文字列の頻度を用いて比較する方法を採用している。この断片文字列を用いて本文を分類する方法は、コンピュータで文章を処理する自然言語処理分野で用いられている基本的な技術の一つである。

具体的には、稿者が作成した本文データからN文字の長さを持つ、文字のNgramと呼ばれる断片文字列を生成し、表記異同の分類に用いる。文字のNgramの生成方法は、本文データの最初の文字から一文字ずつずらしながら

順にN文字の長さの断片文字列を生成することによって行う。生成された断片文字列は、同一の文字列ごとに集計されるので、表記異同は断片文字列の頻度によって表されることとなる。例えば、「いつれの御時」という本文データから3gramを生成した場合、「いつれ」「つれの」「れの御」「の御時」といった三文字の断片文字列が生成される。漢字と仮名の使い方が異なる表記を持つ「いつれの御とき」という本文データに対して同様の処理を行うと、生成されたNgramの種類とその頻度が異なる。このため、異なる本文データから生成されたNgramは表記異同を反映し、その頻度の相違は本文データの表記の相違を表す。二つの本文データのNgramの頻度が一致するまたは類似する場合は、この二つのNgramの頻度の相違は小さくなる。そのため、頻度の相違に着目することで二つの写本の本文に何らかの関係があることが指摘できる、と言える。

#### 四・二 採用した統計的分類方法

表記が類似する二つの本文データから生成されたNgramの頻度の相違は小さくなることを用いて、表記異同の親疎を調査する。この頻度の相違を何らかの計算方法によって求め、比較し分類することで、写本の本文の表記異同の親疎が明らかになる。本調査においてNgramを分類する方法は、複数の(説明)変数を用いてデータを分類する、統計学の変量解析の一つである階層的クラスター分析を用いた。階層的クラスター分析の詳細は注にまとめた。

分類が進むと、最終的には、階層的クラスター分析では、写本間の本文の表記異同の親疎を数値で表す距離が近い順にグループを構成し、複数のグループが組合わされた木構造(樹状図)を構成する。階層的クラスター分析を用いた分類結果とは、木構造を一定の距離で切断し、切断後に構成されているグループのことである。木構造を切断する距離によって分類結果は異なることから、その切断には分類対象としている分野の知見を必要とする。今回の場合であ

れば、文献学の研究成果から得られている本文の類似性の指摘に基づいて切断する距離を決定することが適切であろう。そこで、文献学の知見を用いた表記異同の親疎を表す写本間距離の尺度を設計することとした。

#### 四・三 写本間距離尺度の設計

これまでの文献学の知見から、いくつかの写本に関しては本文の類似性が指摘されている。ここでは、そのうち、「臨模されている」、「字配が一致する」、「共通の親本を持つ」、「異同が少ない」という類似性に着目して、写本を分類する。「臨模されている」関係にある写本として、尊経閣文庫本「柏木」と明融臨模本「柏木」を用いた。「字配の一致」が指摘される写本として、日本本と中院文庫本を採用した。「共通の親本を持つ」可能性がある写本として、池田本と明融臨模本「桐壺」「花宴」を用いた。同系統の本文を持つ写本の中で「異同が少ない」関係にある写本として尾州家河内本と高松宮家本を取り上げた。これらの写本群を対象に、前述した本行本文の表記異同の生成方法と統計的分類方法を用いて、写本間の距離を求め、写本を分類する尺度を設計した。

尺度設計の際には、尺度に影響を与えると考えられる要因を考慮する必要がある。その要因には、表記異同と本文の関係と、適切な本文の断片長である Ngram の文字数 N と写本群の群間距離の関係がある。これらに関しては、実際の本文データに基づいて調査し、それぞれ適切な値を決定することとした。

#### 四・三・一 適切な本文長の調査

表記異同を用いて本文分類を行う場合、その本文長に応じて表記異同が発生する可能性が高まるという関係があると予想できる。そのため、表記異同と本文長の関係を明らかにする必要がある。

その調査では、最初に本文長が異なる巻を選択し、本文が類似する二写本の写本間距離を調査した。表記異同と本文長の関係を明らかにするための写本として日大本と中院文庫本の「空蟬」「花散里」「関屋」「初音」「篝火」「行幸」「藤袴」「鈴虫」「匂宮」「紅梅」「早蕨」の計十一写本を選択した。日大本と中院文庫本は、本行本文の字詰や行詰が一致する写本間関係にあることから、基本的には本文異同は存在しない、と言える。表記異同が発生する要因としては、転写時の誤写、書写者の書き癖とも考えられる音便の相違、親本に存在するミセケチの反映、補入の取り込み、本文データ作成時の採字方針とも関連する漢字と仮名の使い分けの相違がある。このことから、これらの写本を用いることで、表記異同だけを対象とした写本間距離を考察することができる。

本文長に応じて表記異同の距離が増加する関係を図示した場合、本文長の順序で写本が整理すると考えられる。しかし、前稿の調査結果<sup>[11]</sup>からは、表記異同と本文長の関係は単純に増加する関係にないことが明らかになった。そこで、全巻五千字程度の一定長の本文を調査対象とすることとした。本調査で全文を調査した巻は、五千字に満たない巻を中心に、「空蟬」「花宴」「花散里」「関屋」「初音」「篝火」「行幸」「藤袴」「鈴虫」「匂宮」「紅梅」「早蕨」の十二巻である。

#### 四・三・二 適切な文字数Nの調査

Ngramを用いて調査を行う場合に、調査に適切な文字数Nとは、本文の類似性を持つ写本群が、同一の性格を持つ写本群内では密集し、異なる性格を持つ写本群間では重複せずに分類できる文字数である。具体的には、「臨模されている」、「字配が一致する」、「共通の親本を持つ」、「異同が少ない」という類似性を持つ写本群を分類する場合は、それぞれの写本群の写本間距離が群内では密集し、群間では互いに散在するように配置されることが望ましい。ある



文字数 N を採用した場合、写本群が互いに重複するような距離で分類される場合には、その文字数では、写本群を分類できず、その文字数は適切ではない、と言える。

調査対象には、「臨模されている」及び「共通の親本を持つ」写本に加えて、「字配が一致する」日大本と中院文庫本のうち、「桐壺」「箒木」「空蟬」「若紫」「花散里」「関屋」「初音」「篝火」「行幸」「藤袴」「若菜上」「若菜下」「柏木」「鈴虫」「匂宮」「紅梅」「橋姫」「早蕨」「浮舟」の十九写本、「異同が少ない」尾州家本と高松宮家本のうち、「桐壺」「須磨」「明石」「藤袴」「横笛」「紅梅」「橋姫」「宿木」以下を除く、四十一写本を選択した。尾州家本と高松宮家本は、調査対象範囲の本文に脱落が存在せず、同じ河内本系統の巻を対象としている。

文字数 N を一文字から十文字までを対象に調査した結果 [11] からは、文字数が五文字以上であれば、分類が相対的に容易であることが明らかになった。本調査では、前稿までの調査結果 [8] [9] と同様に、文字数 N を五文字 (5gram) とし、写本間距離を測る尺度に用いた。

#### 四・三・三 写本間距離の尺度の決定

5gram を用いた場合に、写本を分類する距離を、各写本群の実測値に基づいて決定する。「臨模されている」、「字配が一致する」、「共通の親本を持つ」、「異同が少ない」という類似性を持つ写本群ごとに距離の分布を確認した。本調査では、それぞれの写本群の分布の 50% を示す値 (第 3 四分位数) を、簡易的な写本間距離を測る尺度として採用した [12]。

この調査結果からは、「臨模されている」関係にある写本間距離は 0.01、「字配が一致する」関係にある写本間距離は 0.03、「共通の親本を持つ」関係にある写本間距離は 0.07、「異同が少ない」関係にある写本間距離は 0.18 となった。但し、

これらの写本間距離の尺度は、今回の調査で暫定的に決定した数値である。今後のさらなる写本の調査結果によって変更する可能性がある。

この尺度は、文献学の専門家の調査によって得られた知見を数値によって表している、と言える。これまで写本文の類似性に関する知見は定性的な記述によって説明されてきたため、その知見を他の写本へ適用することが困難であった。これに対し、本方法では、専門家の知見を写本間距離として数値化したことで、この数値に基づいて他の調査対象写本も分類することが可能となった。

## 五 各帖の写本間距離の調査結果と考察

提案する写本間距離の尺度を用いて、三条西実隆に関連がある写本や同時期に書写されたかと考えられる写本を対象に、本文が類似する写本を探索し、紅梅本の位置付けを試みた。各巻の写本間距離を用いて写本を分類した図は本稿末に掲載した。この図から、各巻の調査結果を集約した表と、(推定を含む)書写年代が明らかな写本との比較をした表を作成し、それに基づいた考察を述べていく。

### 五・一 階層的クラスター分析の調査結果

表記異同を用いた写本の分類結果は、階層的クラスター分析の結果である樹形図として可視化される。表記異同が類似し、写本間距離が近い写本はグループを構成する。グループの写本間距離は、構成されたグループの樹形図の高さとして表されている。このグループの高さを提案する写本間距離の尺度と比較し、写本間関係を分類していく。本

稿末の図では、本文表記が類似する尺度で点線を引き、写本間関係を示している。方法の性質上、尺度の値を示す境界線よりわずかに写本間距離が遠い場合であっても、類似性がないと見做される写本が存在する場合もあることから、ここでは全五十四帖の図を掲載している。

全五十四帖に関して調査対象写本を分類した図からは、表記が類似する写本は多くは存在せず、存在したとしても、「異同が少ない」写本間距離にある可能性が高いと考えられる。この表記が類似する写本が少ないという知見からは、本方法を用いることで、大量に存在する写本の中から、何らかの関係があると考えられる、詳細な調査を必要とする写本を絞り込むことができる利点がある、と言える。その関係や理由は奥書といった文献学や書誌学の知見と共に考察する必要があり、本方法では明らかにすることはできないが、調査すべき写本の選択に関しての示唆を得ることができる。

##### 五、二 各巻の写本間距離に基づく分類結果

本稿末の図の結果を、写本間関係ごとに表二に集約した。表二では、それぞれの写本名を二文字で表し、尺度に基づいた写本間関係ごとに、グループを構成する写本を括弧で表している。括弧が入れ子となっているグループは三写本以上が同一グループに存在していることを表している。表二からは、調査対象写本の中に、「共通の親本を持つ」という類似性を持つ可能性がある七群、「異同が少ない」という類似性を持つ可能性がある九十一群が存在することが明らかになった。「異同が少ない」写本群は、巻ごとに複数の群が存在するため、その数が多い結果となっている。「共通の親本を持つ」写本群は、紅梅本と日大本が四巻あり、これは既に前稿[8]で指摘している。この他には、吉川本と大正大本が二巻あることが明らかになった。また、「異同が少ない」写本群に存在する日大本のうち、「若紫」「末摘花」

「明石」「絵合」「朝顔」「梅枝」「幻」「総角」の八写本は池田本の本行本文に類似することが明らかになった。このうち、「梅枝」を除き、これらの写本は、紅梅本とは異なる本行本文を持つことも明らかになった。

表二の内訳を確認すると、全体の傾向として、大正大本と書陵部本、吉川本、大島本の四写本のうちの複数がグループを構成することが多いことと、日大本、蓬左文庫本、紅梅本の三写本のうちの複数がグループを構成することが多いことが明らかになった。本調査結果は本行本文の表記が類似することを示しているため、グループを構成することが多い写本は、伝来過程に共通の写本を持つといった関係がある可能性を示している。

### 五・三 分類結果に基づく写本間比較

グループを構成する写本間関係を明らかにするために、推定を含む書写年代が明らかかな写本と、吉川本との比較結果を表三に、紅梅本との比較結果を表四にまとめた。表三と表四では、比較対象である書写年代が明らかかな写本を、縦方向に書写年代順に並べ、吉川本と紅梅本と比較した。存在しない巻には斜線を引いている。写本間距離が近い写本は、類似性の程度に応じた記号を用いて表している。

全体の傾向を明らかにする表二と比較し、表三と表四は、特定の写本間の関係について一覽性を持つ形式で可視化しているため、対象とした写本との関係が明らかになる。表二で明らかになった「大正大本と書陵部本、吉川本、大島本の四写本のうちの複数がグループを構成することが多い」という指摘が、吉川本の観点から、具体的に巻と類似性の程度を明らかにすることが可能である。吉川本は、書写年代が明らかかな写本としては、大正大本と書陵部本と「異同が少ない」関係にある巻が多いことが明らかになった。同様に、紅梅本は、日大本、蓬左文庫本と「異同が少ない」関係にある巻が多いことが明らかであり、その中でも紅梅本は蓬左文庫本と本文が類似する巻が多いことが明らかになった。

## 五・四 考察

これまで、写本本文の類似性に関しては、特定の巻に関しての調査報告が多いため、一揃えの写本全体の傾向は明らかではなかった。本調査の表二によって、巻ごとにその傾向が明らかになったので、今後の写本調査においては、ここで指摘した写本を調査することで調査の効率化が可能であろう。

表三からは、吉川本と写本間距離が多い写本は、吉川本の推定書写年代と近い、大正大本、書陵部本であることが明らかになった。表記の異同が吉川本と類似する巻は、大正大本二十巻と、書陵部本十一巻である。これら写本と吉川本は、共通の写本から派生した写本である可能性を指摘できる。また、転写が繰り返されると表記異同が多くなると思定できるので、これら写本は、共通の写本からの転写回数には少ない可能性があると思定できると指摘できる。

同様に、表四からは、紅梅本と写本間距離が多い写本は、日大本、蓬左文庫本であることが明らかになった。紅梅本「蓬生」「若菜上」「総角」は伝来の過程で失われているので、熊大本で代用し、調査対象としている。表記の異同が紅梅本と類似する巻は、日大本二十二巻と、蓬左文庫本三十七巻である。特に、紅梅本は、蓬左文庫本との表記異同が近い関係にあることが明らかになった。残念ながら、本方法では本行本文の類似性を指摘することは可能であるが、その書写年代や書写順序といった関係は明らかにすることはできない。より詳細な紅梅本の位置付けを明らかにするために、異なる調査方法に基づいた報告が必要である。

これらの結果からは、三条西実隆が関わったと考えられる四種類の『源氏物語』写本は主として二群に分類することができる、と言える。言い換えれば、本行本文の類似性の点からは、単純に書陵部本、吉川本、日大本、蓬左文庫本といった書写年代の順で、類似する本文が転写されていった可能性は低いことを指摘できる。但し、本調査は本行本

文を対象としているので、その後の修正や傍記の反映によって他写本との校合の様相が明らかになる可能性や、校合の結果を反映した本文では、異なる分類結果となる可能性がある。

## 六 まとめと今後の課題

本稿では、写本の本行本文の表記異同に着目して、統計処理方法を用いて写本を分類した結果を報告した。本文の表記異同の類似性は、写本間に転写過程を共有するといった関係があるとも考えられる。しかし、その異同の調査は、調査対象となる写本数が大量であることに加え、関連する写本の画像公開や出版が必要であり、これまで調査が困難であった。近年、所蔵者による公開が進み、新しく調査可能となった写本が増加したことから、本調査では、コンピュータを用いた自然言語処理分野の基礎技術を用いて分類を行なった。

紅梅本を中心とした、三条西実隆が関わったと考えられる書陵部本、吉川本、日本本、蓬左文庫本とを比較した結果、本行本文の表記異同の点からは、書陵部本と吉川本に類似する巻が多いこと、日本本と蓬左文庫本が類似する巻が多いことが明らかになった。このうち、紅梅本は日本本と蓬左文庫本と類似し、特に、蓬左文庫本と類似する巻が多いことが明らかになった。

本調査で用いた断片文字列の頻度を比較する方法の利点は、本文上の同一箇所を比較する従来の方法と比べ、一定の規則に基づいて機械的に処理できることから、大量の写本が存在する『源氏物語』の調査の効率化に寄与することである。加えて、今後、調査対象写本が増加した場合であっても、同一の方法によって探索することが可能である。比較対象となる写本が増加すると、比較する組合せは増加し、調査も膨大になるが、本方法を用いた場合は、本文データさえあれば、自動的に分類が行うことができ、かつ、統一的で網羅的な調査が可能であるため、今後の効

率的な調査が期待できる。

尚、本稿で提案した方法は、本行本文や表記異同といった対象に限定されない一般的な方法である。そのため、校訂本文のデータがあれば、従来の本文異同の分類も本方法を用いて可能である。

謝辞

上野英子先生をはじめとした本文研究会の参加者の諸先生のご教示に、末筆ながら厚く御礼申し上げます。また、本研究は JSPS 科研費 JP19K00349 の支援により実施されました。

注

階層的クラスター分析は、データの持つ特徴の類似性に基づいて分類する分析方法である。本調査の階層的クラスター分析では、本行本文の表記の類似性を数値化し、その数値によって分類する。具体的には、次の順序で処理が行われる。本文データから生成された文字の Ngram は、集計され同一の Ngram ごとに頻度を計算する。調査対象とした各巻の写本ごとに、Ngram の頻度データが存在するので、これらの頻度データ間の類似性の程度を表す距離を計算する。この頻度間の「距離」を計算する、複数の計算式(距離関数)が提案されている。本調査では、各巻内の比較だけではなく、巻間の比較を考慮し、情報検索分野で用いられることが多い cosine 距離を用いた。cosine 距離は、頻度が同一の場合は距離 0 となり、完全に不一致の場合は距離 1 となる。階層的クラスター分析では、その距離の数値に基づいて、相対的に本文が類似する写本からなるグループを構成する。グループを構成する計算方法は距離の計算方法とは別に複数提案されている。本調査ではグループを構成する写本の距離の平均がより近い写本を用いてグループを構成する群平均法を用いた。

出典

調査対象写本は、出版または画像公開された写本を対象としている。特に書名のない写本は『源氏物語』を表している。

・紅梅本(紅梅文庫旧蔵本) 実践女子大学文芸資料研究所上野英子教授より画像を閲覧させていただいた

・書陵部本(書陵部蔵三条西家本) 宮内庁書陵部所蔵資料目録・画像公開システム

<https://shoryobu.kunichigo.jp/Toshoryo/Detail/100062926000>

・吉川本(吉川史料館蔵青表紙本) 整理番号 555

・日本本(日本大学蔵三条西家本) 日本大学蔵源氏物語第一巻～第十一巻三条西家証本 八木書店 1994.1995.1996

・蓬左本(蓬左文庫蔵三条西家本) 源氏物語青表紙本 54巻・目録2巻・極1巻56冊・1冊 請求番号 1-1644

・池田本源氏物語池田本一～十新天理図書館善本叢書 天理図書館附属天理図書館編 八木書店 2016.2017.2018

・大正大学本 大正大学図書館・研究所 源氏物語写本(2021/09/30 現在リンク切れ)

<https://tais.ac.jp/library/labo/library/genji/>

・大島本 大島本源氏物語第一巻～第十巻 角川書店 1996

・保坂本 保坂本源氏物語第一巻～第四巻 おうふう 1995.1996

・熊大本(熊本大学教育学部所蔵本) 新日本古典籍総合データベース <https://kosensekinijl.ac.jp/biblio/100137183/>

#### 参考文献

- [1] 岡野道夫「吉川本源氏物語箒木巻の本文について」『日本大学人文科学研究所研究紀要第十六輯(1974年3月)』
- [2] 岡野道夫「蓬左文庫本源氏物語の本文―柏木巻について―」『日本大学商学研究会『商学集志』第四十四巻第二、三、四号合併号(1974年12月)』
- [3] 加藤洋介「大島本源氏物語の本文成立事情―若菜下巻の場合―」『中古文学会関西部会(編)「大島本源氏物語の再検討」和泉書院(2009年10月)』
- [4] 中川照将「源氏物語大成」校異篇の歴史的意義」助川幸逸郎(他編)「新時代の源氏学7 複線化する源氏物語」竹林舎(2015年5月)』
- [5] 上野英子「源氏物語三条西家本の世界―室町時代享受史の一樣相」武蔵野書院(2019年10月)』
- [6] 国文学研究資料館「日本古典籍総合目録データベース」<https://basel.nijl.ac.jp/~tkoten/>(2021年11月閲覧)』
- [7] 齊藤鉄也「仮名のNgramを用いた源氏物語写本の系統分類の試み」『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 Vol.2017』



- No.1 89-96 (2017年12月)
- [8] 齊藤鉄也「Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(1)」実践女子大学文芸資料研究所年報第39号(2020年3月)
- [9] 齊藤鉄也「Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(2)」実践女子大学文芸資料研究所年報第40号(2021年3月)
- [10] 齊藤鉄也「表記のNgramを用いた蓬左文庫蔵三条西家本源氏物語の親本の推定―紅梅文庫旧蔵本源氏物語と日本大学蔵三条西家本源氏物語との比較を通して―」淑徳大学経営学部・教育学部研究年報2020(2021年3月)
- [11] 齊藤鉄也「本文表記のNgramを用いた室町時代書写の源氏物語写本の分類」情報処理学会論文誌 Vol.63, No.2 掲載予定(2022年2月)
- [12] 齊藤鉄也「Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付けの調査―書陵部蔵三条西家本、保坂本、大正大学本、日大本、池田本、大島本を中心とした写本との比較を通して―」科研費報告書「新出資料紅梅文庫旧蔵本を中心とした三条西家源氏物語本文の再構築に関する研究」掲載予定(2022年3月)

表一 本調査で用いた本文データ

巻	吉川本			蓬左文庫本			熊大本		
	仮名数	漢字数	漢字率	仮名数	漢字数	漢字率	仮名数	漢字数	漢字率
01- 桐壺	5429	669	10.97%	5736	505	8.09%			
02- 箒木	5867	344	5.54%	5906	322	5.17%			
03- 空蟬	4499	300	6.25%	4573	251	5.20%			
04- 夕顔	5285	531	9.13%	5513	383	6.50%			
05- 若紫	5205	541	9.42%	5335	480	8.25%			
06- 末摘花	5803	291	4.78%	5457	455	7.70%			
07- 紅葉賀	5715	612	9.67%	5890	564	8.74%			
08- 花宴	4288	314	6.82%	4166	368	8.12%			
09- 葵	5666	650	10.29%	6240	387	5.84%			
10- 賢木	5562	682	10.92%	5859	551	8.60%			
11- 花散里	1631	139	7.85%	1624	84	4.92%			
12- 須磨	5706	370	6.09%	5531	442	7.40%			
13- 明石	5573	557	9.09%	5882	406	6.46%			
14- 滯標	5673	593	9.46%	5746	574	9.08%			
15- 蓬生	5810	617	9.60%	6085	484	7.37%	6070	483	7.37%
16- 関屋	1951	135	6.47%	1970	128	6.10%			
17- 絵合	5563	536	8.79%	5374	488	8.32%			
18- 松風	5236	521	9.05%	5567	353	5.96%			
19- 薄雲	5366	448	7.71%	5498	395	6.70%			
20- 朝顔	5079	481	8.65%	5420	353	6.11%			
21- 少女	5593	557	9.06%	5560	561	9.17%			
22- 玉鬘	5079	357	6.57%	5332	229	4.12%			
23- 初音	5792	491	7.81%	6135	335	5.18%			
24- 胡蝶	5716	435	7.07%	5880	372	5.95%			
25- 螢	6021	423	6.56%	6419	253	3.79%			
26- 常夏	6036	414	6.42%	6080	376	5.82%			
27- 篝火	1415	85	5.67%	1350	113	7.72%			
28- 野分	6350	642	9.18%	6688	479	6.68%			
29- 行幸	11271	904	7.43%	10722	1146	9.66%			
30- 藤袴	5621	539	8.75%	5757	473	7.59%			
31- 真木柱	6090	633	9.42%	6555	418	5.99%			
32- 梅枝	5386	567	9.52%	5581	458	7.58%			

巻	吉川本			蓬左文庫本			熊大本		
	仮名数	漢字数	漢字率	仮名数	漢字数	漢字率	仮名数	漢字数	漢字率
33- 藤裏葉	5480	431	7.29%	5123	435	7.83%			
34- 若菜上	5898	455	7.16%	5749	511	8.16%	5701	547	8.75%
35- 若菜下	5622	509	8.30%	5575	530	8.68%			
36- 柏木	5148	390	7.04%	5440	278	4.86%			
37- 横笛	5490	415	7.03%	5503	411	6.95%			
38- 鈴虫	5732	575	9.12%	5874	542	8.45%			
39- 夕霧	5335	518	8.85%	5530	408	6.87%			
40- 御法	5587	533	8.71%	5795	446	7.15%			
41- 幻	6327	523	7.64%	6749	298	4.23%			
42- 匂兵部卿	5767	530	8.42%	5933	498	7.74%			
43- 紅梅	5142	537	9.46%	5323	455	7.87%			
44- 竹河	5283	651	10.97%	5567	503	8.29%			
45- 橋姫	5009	356	6.64%	4978	357	6.69%			
46- 椎本	5520	501	8.32%	5474	516	8.61%			
47- 総角	5717	288	4.80%	5416	432	7.39%	5399	430	7.38%
48- 早蕨	7152	669	8.55%	7708	413	5.09%			
49- 宿木	5544	563	9.22%	5654	495	8.05%			
50- 東屋	5770	401	6.50%	5698	407	6.67%			
51- 浮舟	5239	477	8.34%	5461	387	6.62%			
52- 蜻蛉	5371	446	7.67%	5555	369	6.23%			
53- 手習	5139	478	8.51%	5552	251	4.33%			
54- 夢浮橋	5493	406	6.88%	5595	344	5.79%			

表一 本調査で用いた本文データ(続き)

表二 写本間距離の調査結果

写本間関係	卷	写本群
臨模		
字配が一致		
共通の親本を持つ	01	(紅梅, 日大)
	02	(紅梅, 日大)
	03	(紅梅, 日大)
	04	(紅梅, 日大)
	08	((吉川, 大正), 保坂)
	24	(蓬左, 日大)
	31	(吉川, 大正)
異同が少ない	01	((紅梅, 日大), 蓬左)(保坂, 書三)
	02	((紅梅, 日大), 吉川), 書三)
	03	((紅梅, 日大), 蓬左)
	05	(吉川, 大正)(池田, 日大)
	06	(蓬左, 紅梅)((池田, 日大), 書三)(大島, 大正)
	07	((蓬左, 紅梅), 保坂)((吉川, 大正), 日大), 書三)
	08	(蓬左, 紅梅)
	10	(吉川, 書三)((保坂, 紅梅), 蓬左)
	11	(吉川, 大正)
	12	(保坂, 日大)
	13	(吉川, 大正)(池田, 日大)(蓬左, 紅梅)
	14	((吉川, 大正), 書三)(保坂, 紅梅)
	15	((蓬左, 熊大), 保坂)
	16	((吉川, 大正), 大島)(蓬左, 日大)(保坂, 紅梅)
	17	(池田, 日大)(蓬左, 紅梅)
		((吉川, 大正), 書三), 大島)
	18	((紅梅, 大島), 書三), 大正)
	19	(吉川, 大正)(蓬左, 紅梅)
	20	(池田, 日大)(蓬左, 紅梅)(大島, 大正)
	21	(吉川, 大正)(蓬左, 紅梅)
	22	(蓬左, 紅梅)(吉川, 大正)
	23	((蓬左, 紅梅), 大正)
	24	((蓬左, 日大), 紅梅)
	25	((蓬左, 紅梅), 日大)(吉川, 大島)
	26	((吉川, 書三), 大島)((蓬左, 紅梅), 日大)
	27	((紅梅, 書三), 日大)((大島, 大正), 吉川)
	28	((紅梅, 日大), 蓬左)(大島, 書三)
	29	((大島, 大正), 吉川)
	30	(吉川, 大正)(大島, 書三)((蓬左, 紅梅), 日大)

写本間関係	巻	写本群
異同が少ない	31	(( 吉川, 大正 ), 書三) ( 蓬左, 日大 )
	32	(( 蓬左, 日大 ), 紅梅)
	33	(( 紅梅, 日大 ), 蓬左)
	34	(( 大島, 書三 ), 大正) ((( 蓬左, 熊大 ), 吉川 ), 日大)
	35	(( 書三, 大正 ), 大島) (( 紅梅, 蓬左 ), 日大)
	36	( 紅梅, 日大 )
	37	(( 蓬左, 紅梅 ), 日大)
	38	(( 蓬左, 紅梅 ), 池田)
	39	( 蓬左, 紅梅 ) (( 書三, 大正 ), 大島)
	40	( 蓬左, 紅梅 ) (( 大島, 書三 ), 吉川)
	41	( 蓬左, 紅梅 ) ( 吉川, 大正 )
	42	(( 紅梅, 日大 ), 蓬左)
	43	( 蓬左, 紅梅 ) ( 吉川, 大正 )
	44	( 蓬左, 紅梅 ) (( 大島, 書三 ), 大正)
	45	(( 書三, 大正 ), 吉川) ( 蓬左, 紅梅 )
	46	(( 書三, 大正 ), 大島) ( 蓬左, 紅梅 )
	47	(( 吉川, 大正 ), 大島) ( 池田, 日大 ) ( 蓬左, 熊大 )
	48	( 紅梅, 日大 )
	49	( 蓬左, 紅梅 )
	50	( 紅梅, 日大 )
	51	(( 蓬左, 紅梅 ), 日大) (( 吉川, 大正 ), 書三)
	52	( 蓬左, 紅梅 ) ( 大島, 書三 )
	53	( 紅梅, 日大 ) ( 書三, 大正 )
	54	( 蓬左, 日大 ) ( 吉川, 書三 )

表二 写本間距離の調査結果(続き)

表二 吉川本との類似する写本

写本名	大正大学本	書陵部本	保坂本	日大本	蓬左本
書写年代	1490,1493	1489-1506	1504?-1521?	1525,1530,1531	1533
01- 桐壺					
02- 箒木		●		●	
03- 空蟬					
04- 夕顔					
05- 若紫	●				
06- 末摘花					
07- 紅葉賀	●	●	●	●	●
08- 花宴	○		○		
09- 葵					
10- 賢木		●			
11- 花散里	●				
12- 須磨					
13- 明石	●				
14- 滯標	●	●			
15- 蓬生					
16- 関屋	●				
17- 絵合	●	●			
18- 松風					
19- 薄雲	●				
20- 朝顔					
21- 少女	●				
22- 玉鬘	●				
23- 初音					
24- 胡蝶					
25- 蛩					
26- 常夏		●			
27- 篝火	●				
28- 野分					
29- 行幸	●				
30- 藤袴	●				
31- 真木柱	○	●			
32- 梅枝					
33- 藤裏葉					
34- 若菜上				●	●
35- 若菜下					
36- 柏木					
37- 横笛					
38- 鈴虫					

写本名	大正大学本	書陵部本	保坂本	日大本	蓬左本
書写年代	1490,1493	1489-1506	1504?-1521?	1525,1530,1531	1533
39- 夕霧					
40- 御法		●			
41- 幻	●				
42- 匂兵部卿					
43- 紅梅	●				
44- 竹河					
45- 橋姫	●	●			
46- 椎本					
47- 総角	●				
48- 早蕨					
49- 宿木					
50- 東屋					
51- 浮舟	●	●			
52- 蜻蛉					
53- 手習					
54- 夢浮橋		●			

表二 吉川本との類似する写本(続き)

表中の記号の意味は以下の通りである。それぞれ  
 ☆「臨模されている」、◎「字配が一致する」、○「共通の親本を持つ」  
 ●「異同が少ない」距離にあることを示す。

表四 紅梅本との類似する写本

写本名	大正大学本	書陵部本	保坂本	日大本	蓬左本
書写年代	1490,1493	1489-1506	1504?-1521?	1525,1530,1531	1533
01- 桐壺				○	●
02- 箒木		●		○	
03- 空蟬				○	●
04- 夕顔				○	
05- 若紫					
06- 末摘花					●
07- 紅葉賀	●	●	●	●	●
08- 花宴					●
09- 葵					
10- 賢木			●		●
11- 花散里					
12- 須磨					
13- 明石					●
14- 滯標			●		
15- 蓬生			* ●		* ●
16- 関屋			●		
17- 絵合					●
18- 松風	●	●			
19- 薄雲					●
20- 朝顔					●
21- 少女					●
22- 玉鬘					●
23- 初音	●				●
24- 胡蝶				●	●
25- 蛩	●			●	●
26- 常夏				●	●
27- 篝火		●		●	
28- 野分				●	●
29- 行幸					
30- 藤袴				●	●
31- 真木柱					
32- 梅枝				●	●
33- 藤裏葉				●	●
34- 若菜上				* ●	* ●
35- 若菜下				●	●
36- 柏木				●	
37- 横笛				●	●



写本名	大正大学本	書陵部本	保坂本	日大本	蓬左本
書写年代	1490,1493	1489-1506	1504?-1521?	1525,1530,1531	1533
38- 鈴虫					●
39- 夕霧					●
40- 御法					●
41- 幻					●
42- 匂兵部卿				●	●
43- 紅梅					●
44- 竹河					●
45- 橋姫					●
46- 椎本					●
47- 総角					*●
48- 早蕨				●	
49- 宿木					●
50- 東屋				●	
51- 浮舟				●	●
52- 蜻蛉					●
53- 手習				●	
54- 夢浮橋					

表四 紅梅本との類似する写本(続き)

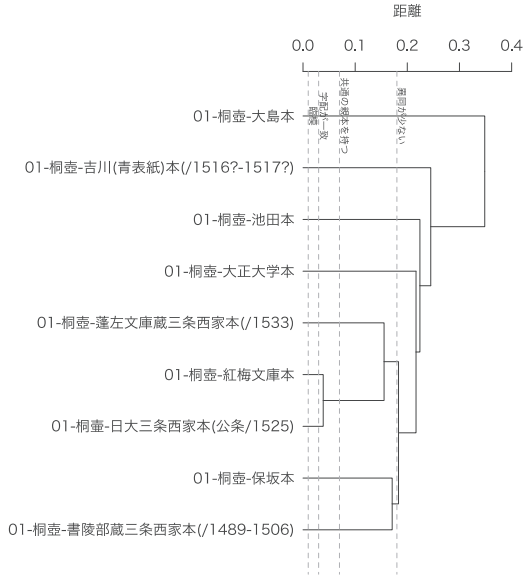
表中の記号の意味は以下の通りである。それぞれ

☆「臨模されている」、◎「字配が一致する」、○「共通の親本を持つ」

●「異同が少ない」距離にあることを示す。

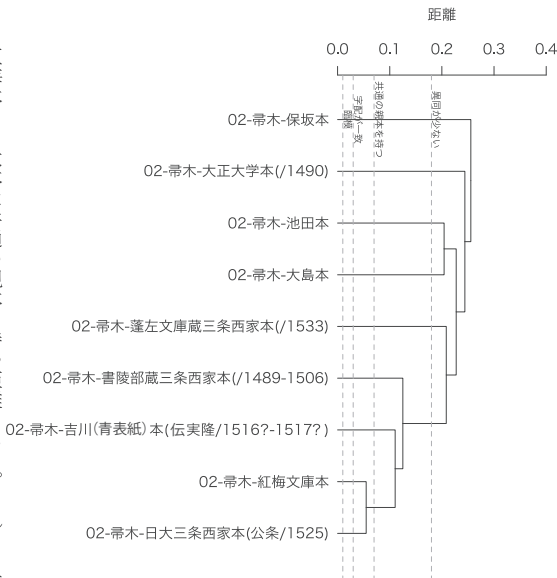
紅梅本「蓬生」「若菜上」「総角」は欠巻または後補であるため、熊本大学本で代用している。表中では\*を用いて示している。

図 各巻の写本間距離の階層的クラスター分析結果  
第一帖「桐壺」



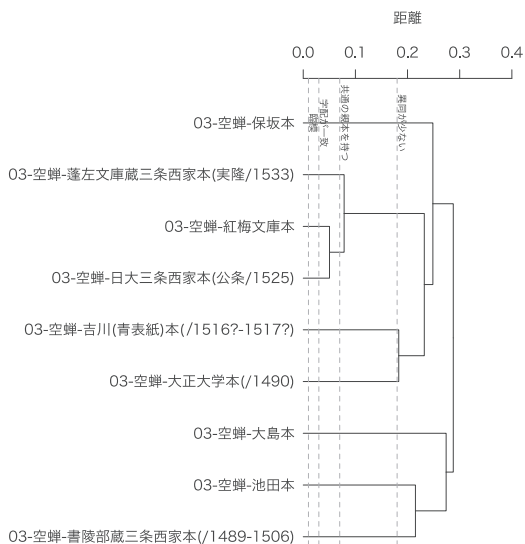
- 紅梅本と日大本は共通の親本を持つ距離にある。それらと蓬左本は異同が少ない距離にある。
- 保坂本と書陵部本は異同が少ない距離にある。

第二帖「箒木」



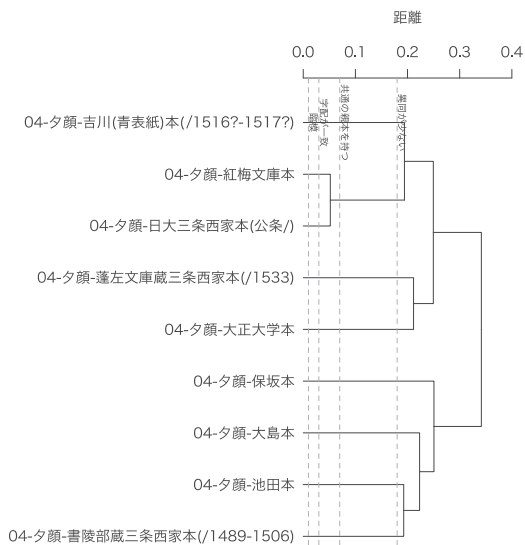
- 紅梅本と日大本は共通の親本を持つ距離にある。それらと吉川本、書陵部本は異同が少ない距離にある。

● 紅梅本と日大本は共通の親本を持つ距離にある。それらと、蓬左本は写本と異同が少ない距離にある。



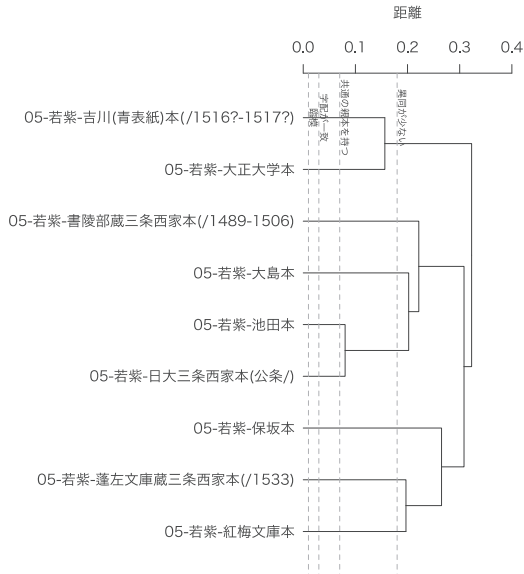
第三帖「空蟬」

● 紅梅本と日大本は共通の親本を持つ距離にある。



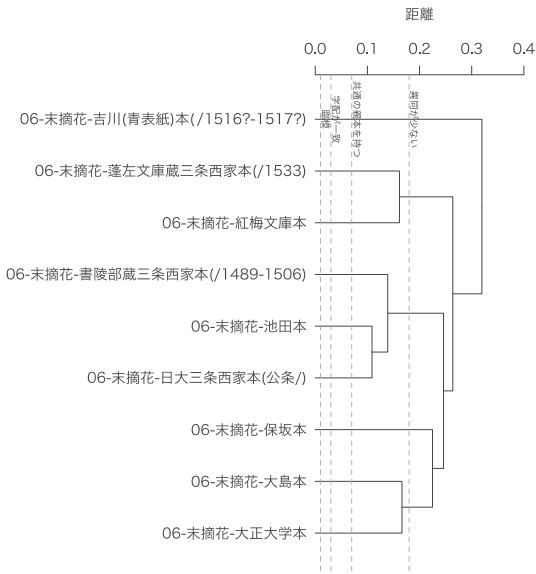
第四帖「夕顔」

第五帖「若紫」



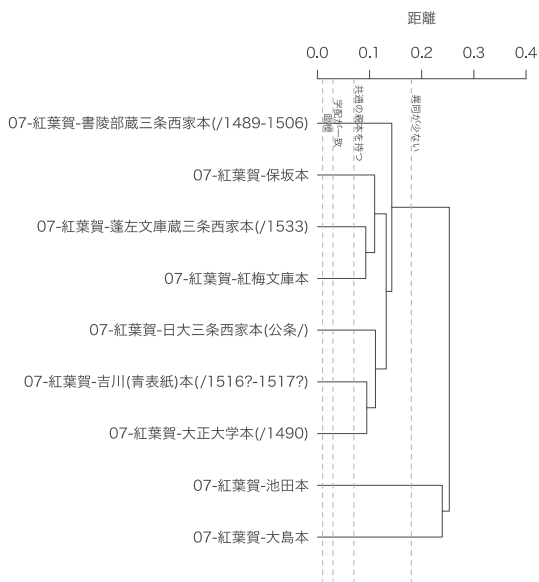
- ● 吉川本と大正大本は異同が少ない距離にある。
- ● 池田本と日大本は異同が少ない距離にある。

第六帖「末摘花」



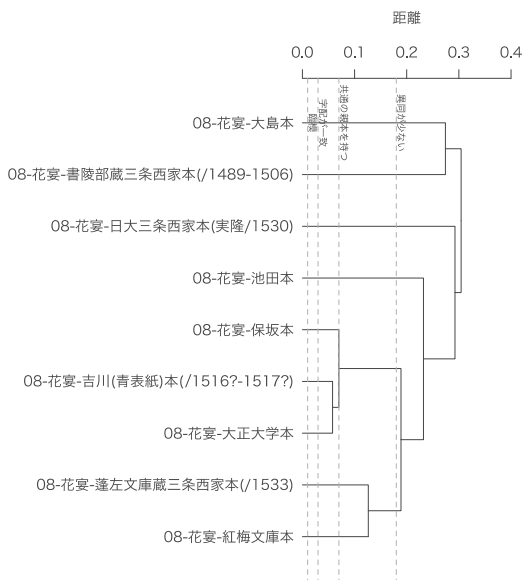
- ● ● 蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。
- ● ● 池田本と日大本、書陵部本は異同が少ない距離にある。
- ● ● 大島本と大正大本は異同が少ない距離にある。

● 蓬左本と紅梅本、保坂本、吉川本と大正大本、日大本、書陵部蔵本は異同が少ない距離にある。



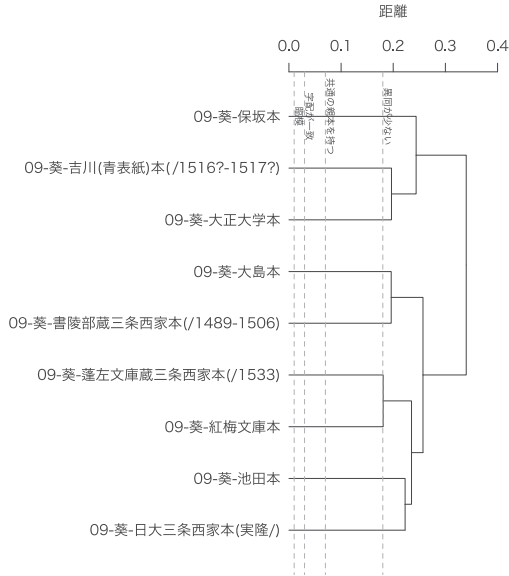
第七帖「紅葉賀」

● ● 吉川本と大正大本、保坂本は共通の親本を持つ距離にある。蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。

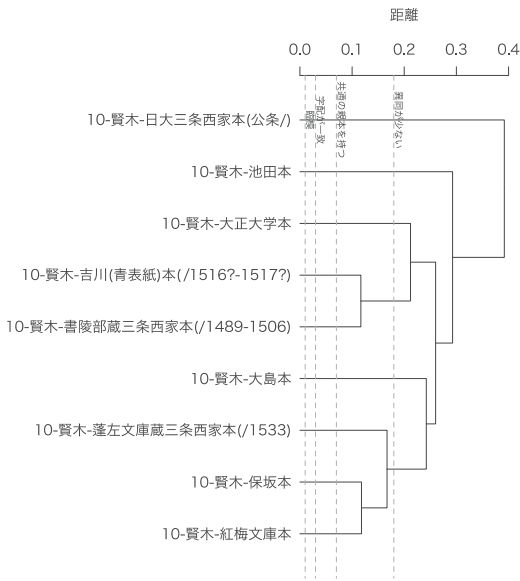


第八帖「花宴」

● 蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。

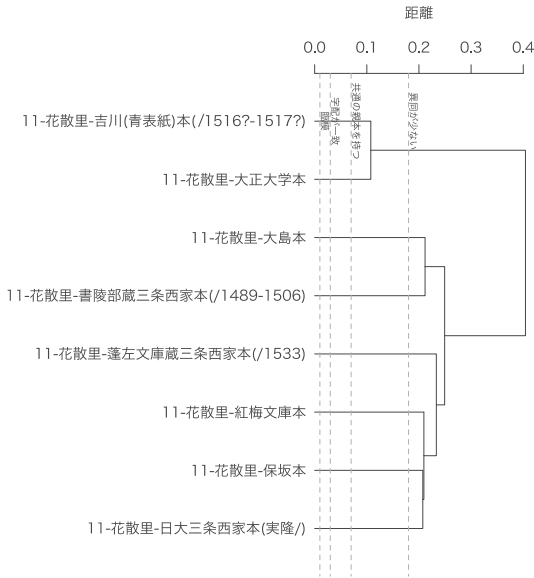


● ● 吉川本と書陵部本は異同が少ない距離にある。  
保坂本と紅梅本、蓬左本は異同が少ない距離にある。



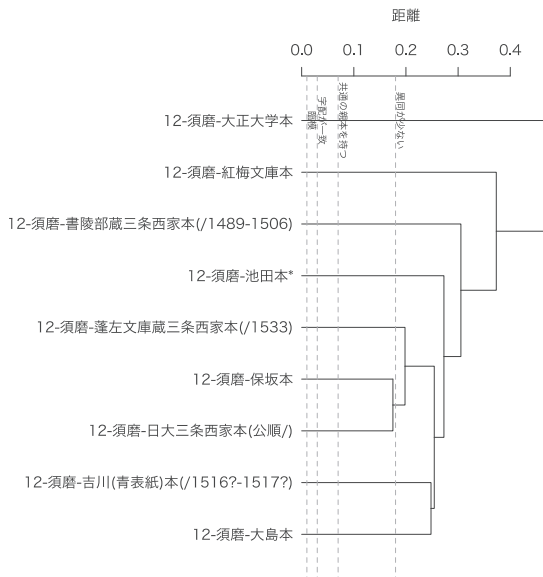
第十二帖「花散里」

● 吉川本と大正大本は異同が少ない距離にある。

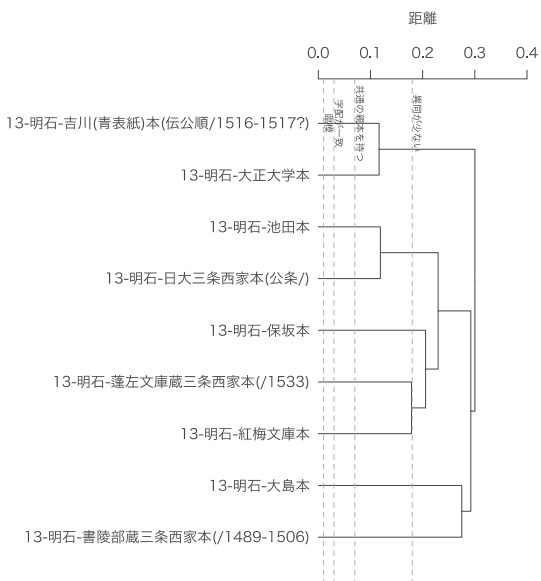


第十二帖「須磨」

● ● 保坂本と日大本は異同が少ない距離にある。池田本には調査対象範囲の本文に脱落がある。

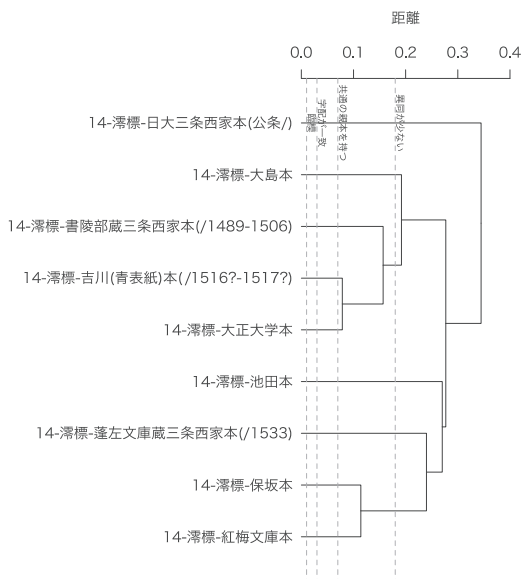


第十三帖「明石」



- 吉川本と大正大本は異同が少ない距離にある。
- 池田本と日大本は異同が少ない距離にある。
- 蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。

第十四帖「澁標」



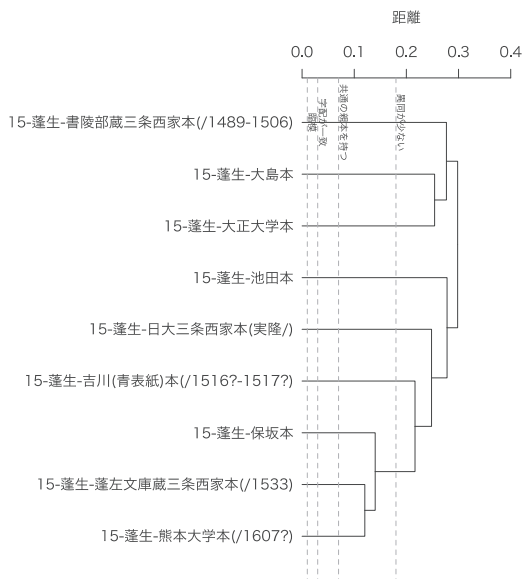
- 吉川本と大正大本、書陵部本は異同が少ない距離にある。
- 保坂本と紅梅本は異同が少ない距離にある。



Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け (3)

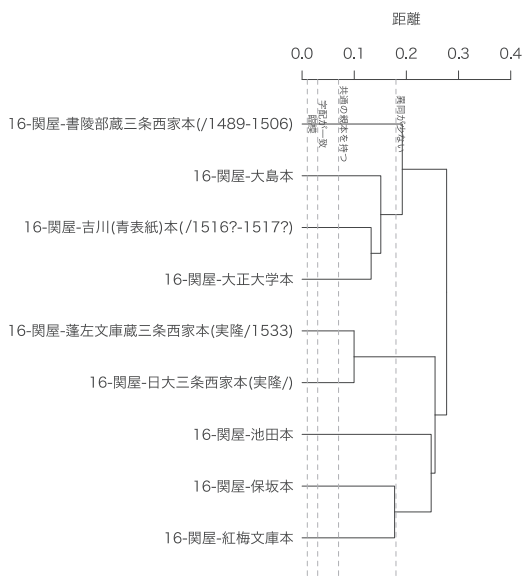
第十五帖「蓬生」

- ●
- 紅梅本が存在しないため熊大本を参考に用いている。
- 蓬左本と熊大本、保坂本は異同が少ない距離にある。

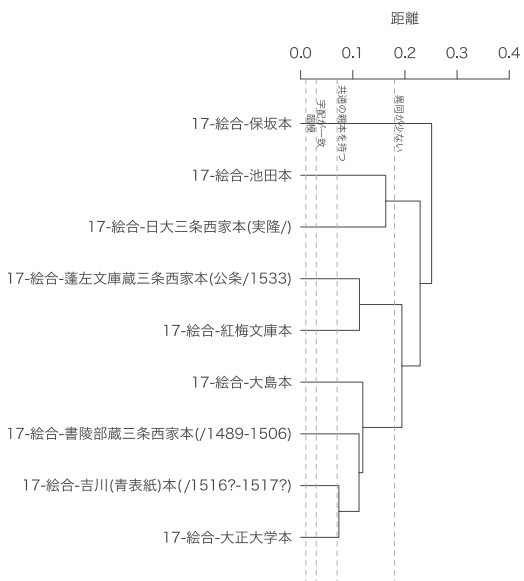


第十六帖「関屋」

- ● ●
- 吉川本と大正大本、大島本は異同が少ない距離にある。
- 蓬左本と日大本は異同が少ない距離にある。
- 保坂本と紅梅本は異同が少ない距離にある。

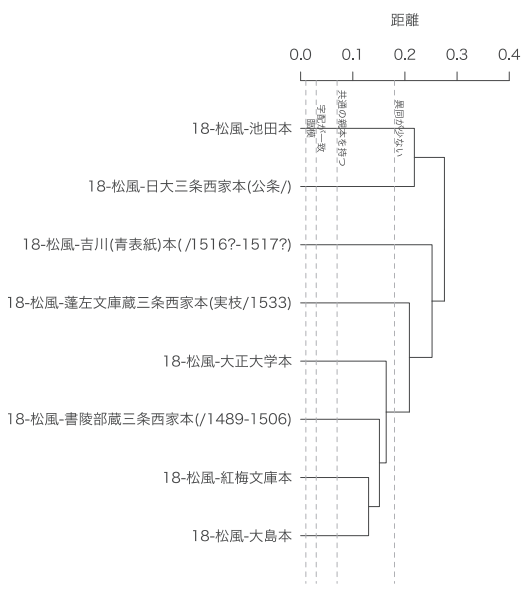


第十七帖「絵合」



- 池田本と日大本は異同が少ない距離にある。
- 蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。
- 吉川本と大正大本、書陵部本、大島本は異同が少ない距離にある。

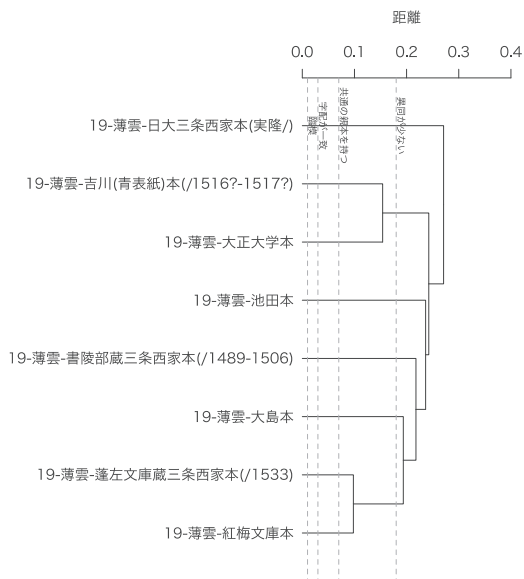
第十八帖「松風」



- 紅梅本と大島本、書陵部本、大正大本は異同が少ない距離にある。

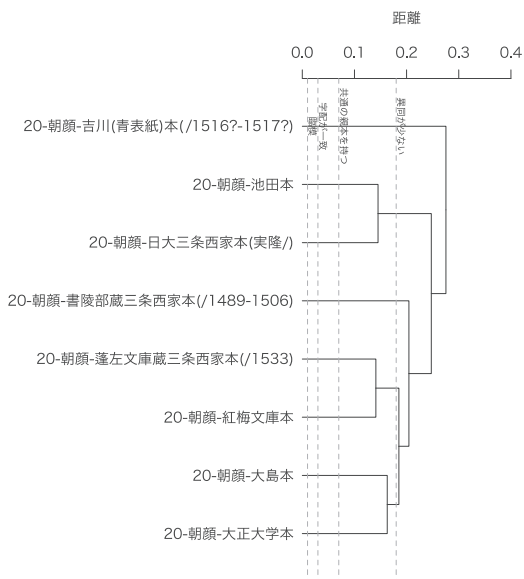
- ●

吉川本と大正大本は異同が少ない距離にある。  
蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。



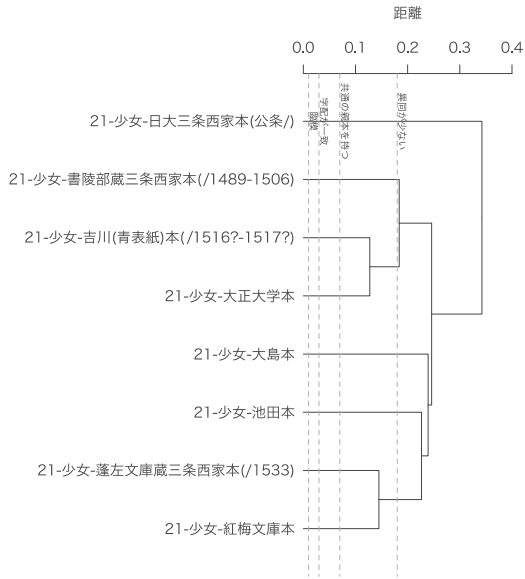
- ● ●

池田本と日大本は異同が少ない距離にある。  
蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。  
大島本と大正大本は異同が少ない距離にある。

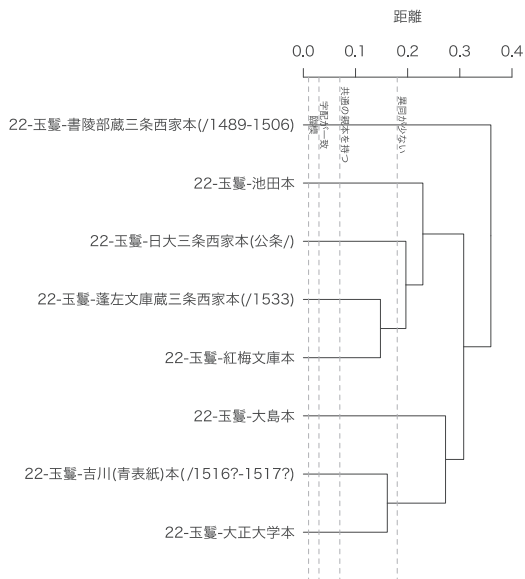


第二十一帖「少女」

- ● 吉川本と大正大本は異同が少ない距離にある。  
蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。

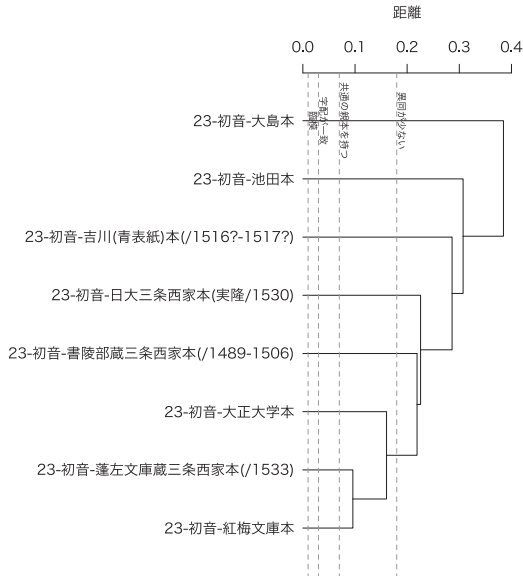


- ● 蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。  
吉川本と大正大本は異同が少ない距離にある。

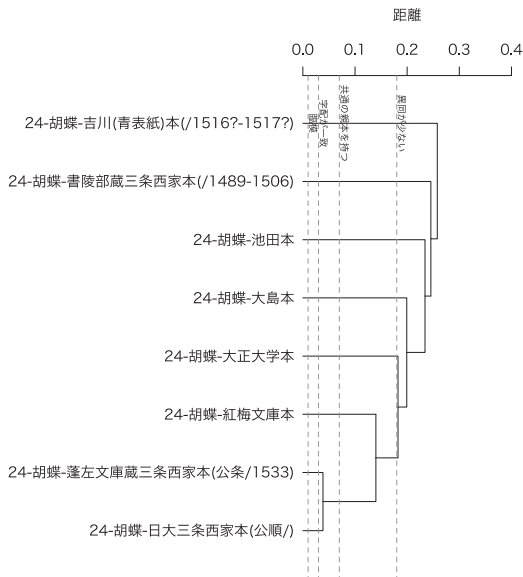


第二十二帖「玉鬘」

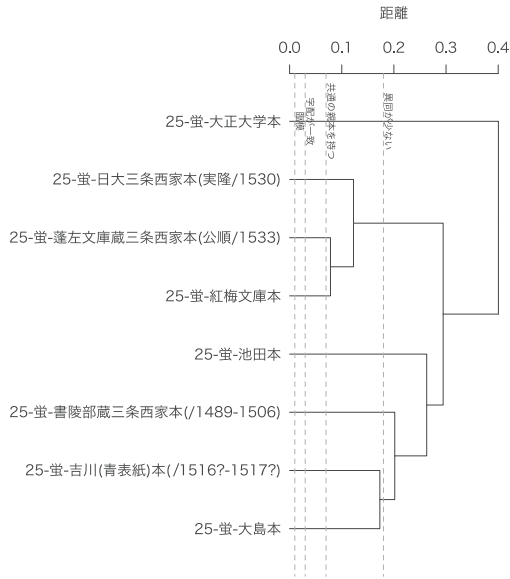
● 蓬左本と紅梅本、大正本は異同が少ない距離にある。



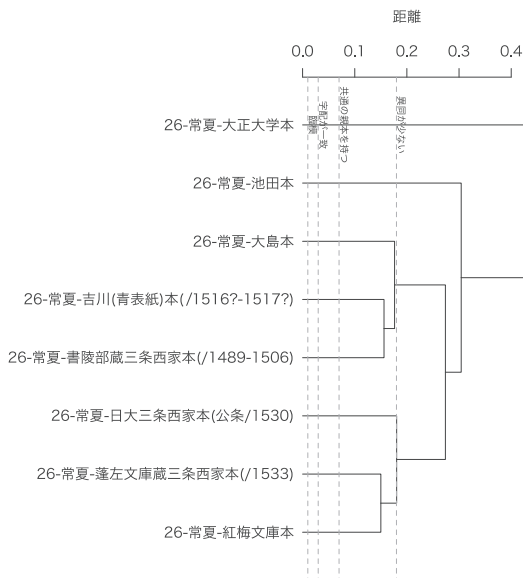
● 蓬左本と日大本は共通の親本を持つ距離にある。それらと紅梅本は異同が少ない距離にある。



- ● 蓬左本と紅梅本、日大本は異同が少ない距離にある。
- ● 吉川本と大島本は異同が少ない距離にある。

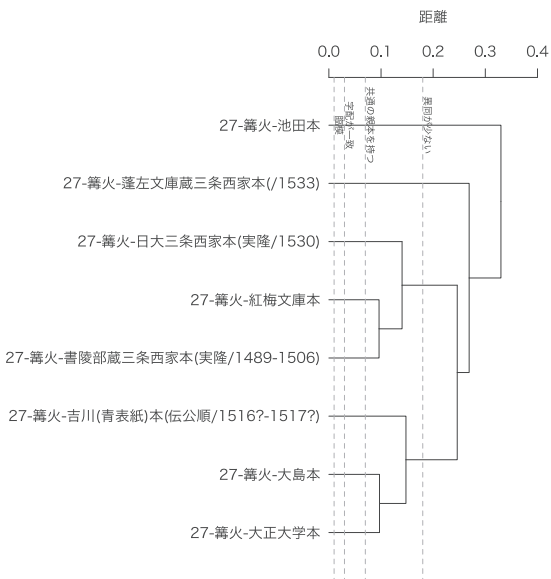


- ● 吉川本と書陵部本、大島本は異同が少ない距離にある。
- ● 蓬左本と紅梅本、日大本は異同が少ない距離にある。



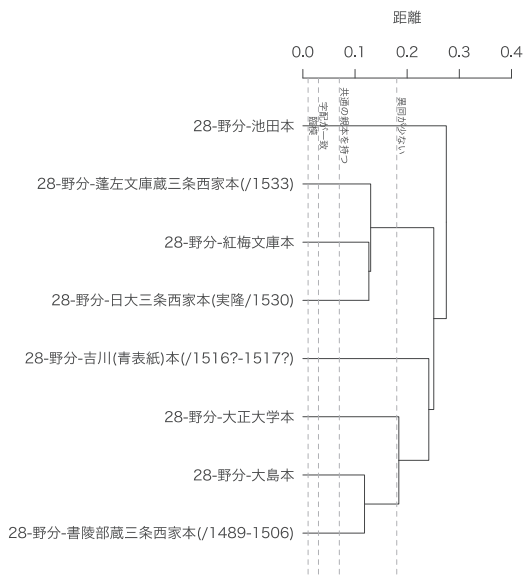
Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け (3)

● ●  
紅梅本と書陵部本、日大本は異同が少ない距離にある。  
大島本と大正大本、吉川本は異同が少ない距離にある。



第二十七帖「篝火」

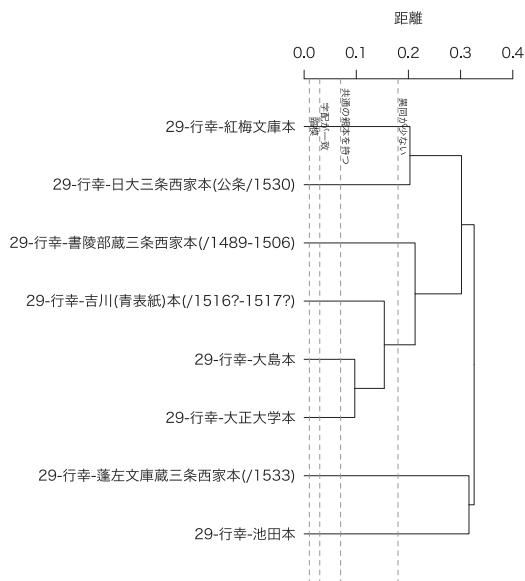
● ●  
紅梅本と日大本、蓬左本は異同が少ない距離にある。  
大島本と書陵部本は異同が少ない距離にある。



第二十八帖「野分」

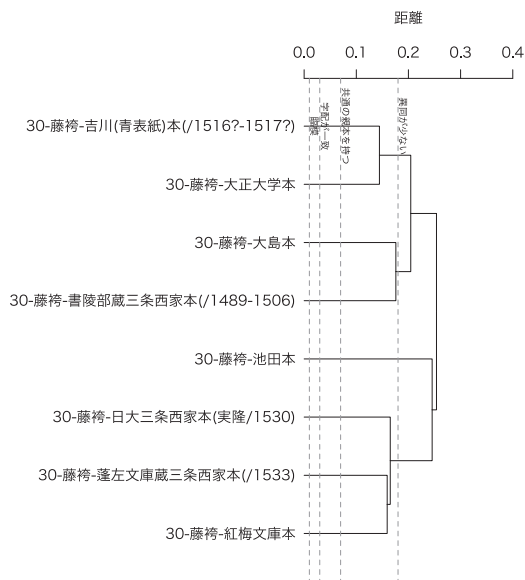
第二十九帖「行幸」

● 大島本と大正本、吉川本は異同が少ない距離にある。



第三十帖「藤袴」

● 吉川本と大正本は異同が少ない距離にある。  
 ● 大島本と書陵部本は異同が少ない距離にある。  
 ● 蓬左本と紅梅本、日大本は異同が少ない距離にある。

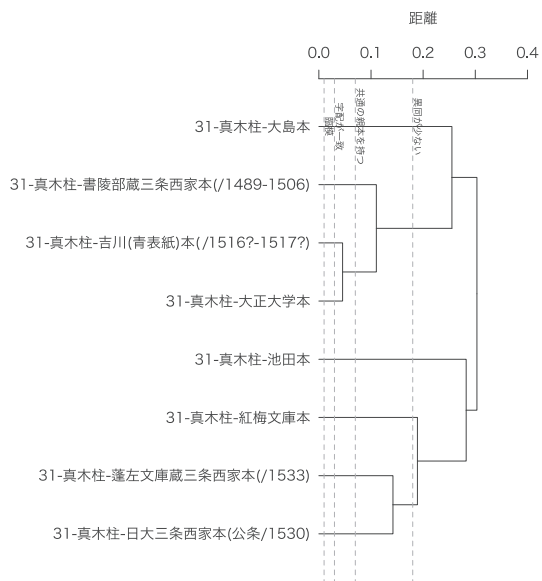




Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け (3)

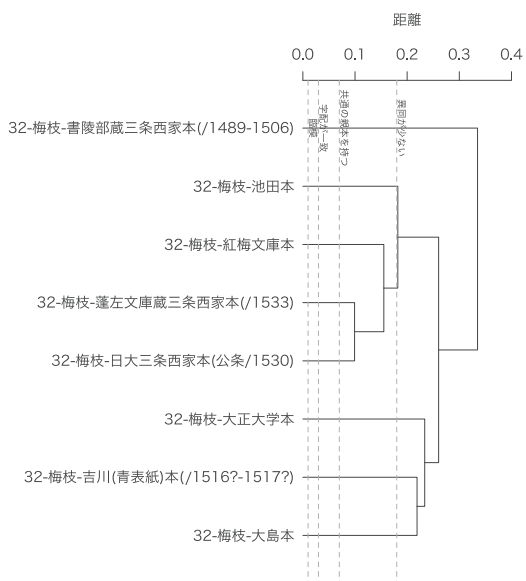
第三十一帖「真木柱」

- 吉川本と大正大本は共通の親本を持つ距離にある。それらと書陵部本は異同が少ない距離にある。
- 蓬左本と日大本は異同が少ない距離にある。



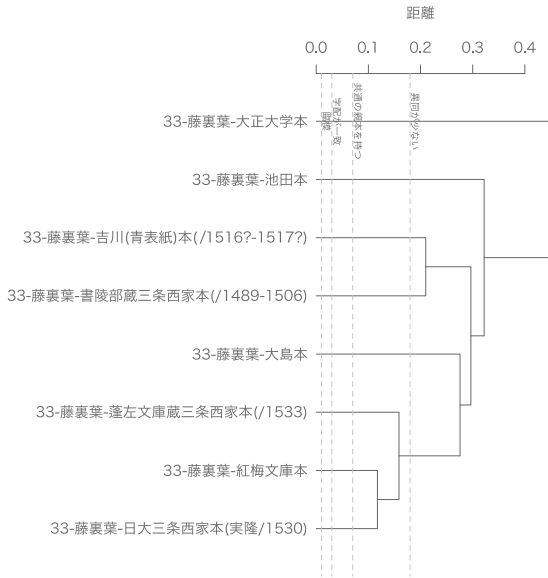
第三十二帖「梅枝」

- 蓬左本と日大本、紅梅本は異同が少ない距離にある。



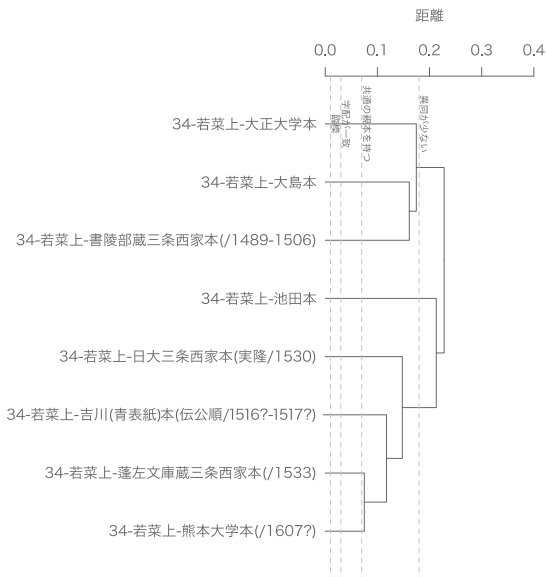
第三十三帖「藤裏葉」

● 紅梅本と日大本、蓬左本は異同が少ない距離にある。



第三十四帖「若菜上」

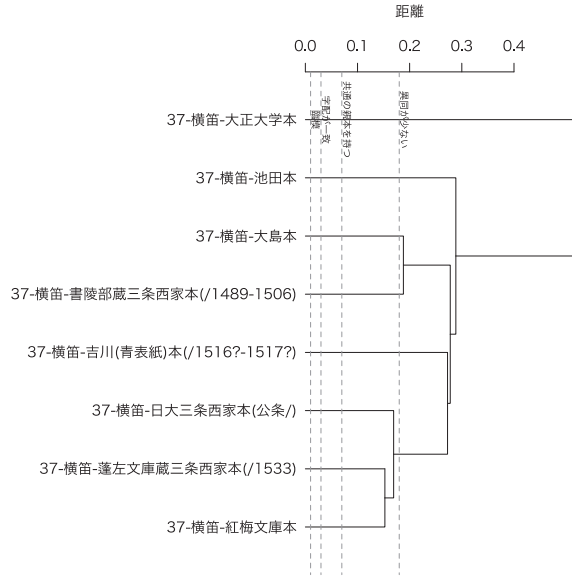
● ● ● 紅梅本が存在しないため熊大本を参考に用いている。  
 大島本と書陵部本、大正大本は異同が少ない距離にある。  
 蓬左本と熊大本、吉川本、日大本は異同が少ない距離にある。





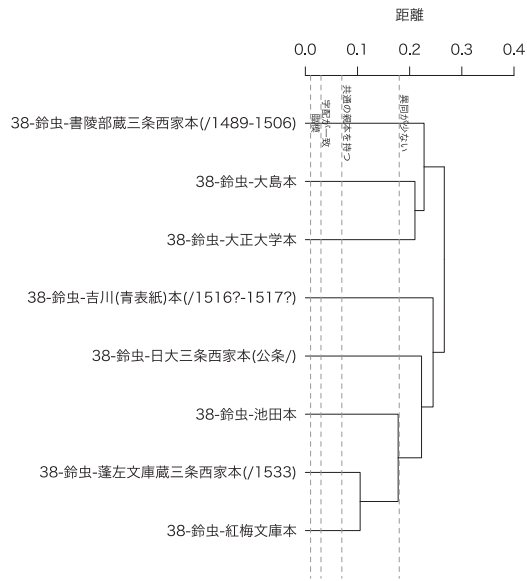
第三十七帖「横笛」

● 蓬左本と紅梅本、日本本は異同が少ない距離にある。



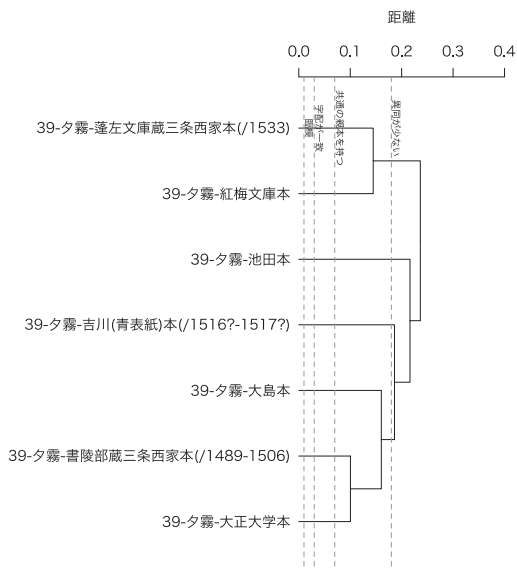
第三十八帖「鈴虫」

● 蓬左本と紅梅本、池田本は異同が少ない距離にある。



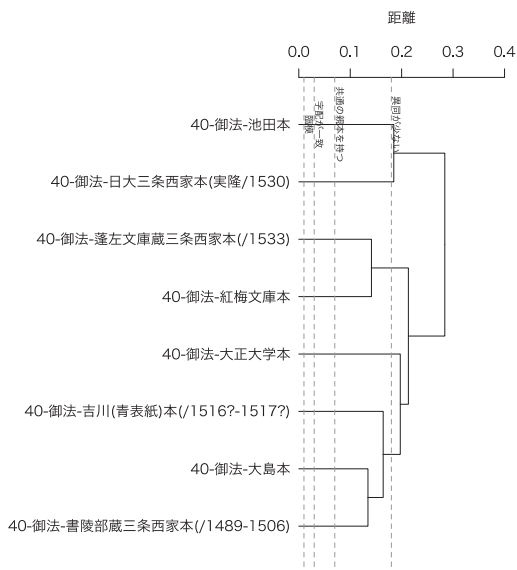
第三十九帖「夕霧」

- ● 蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。
- ● 書陵部本と大正大本、大島本は異同が少ない距離にある。

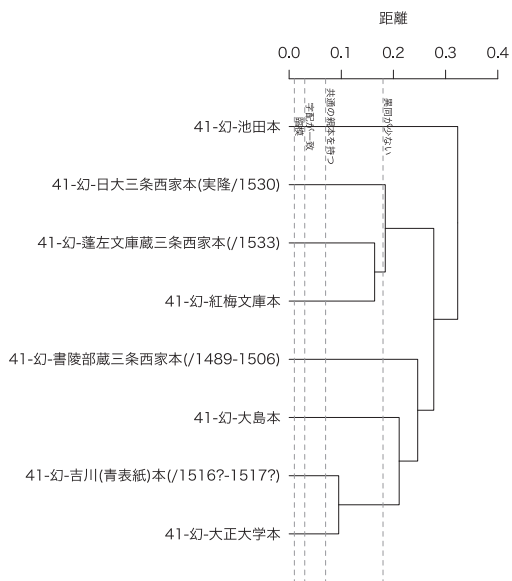


第四十帖「御法」

- ● 蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。
- ● 大島本と書陵部本、吉川本は異同が少ない距離にある。

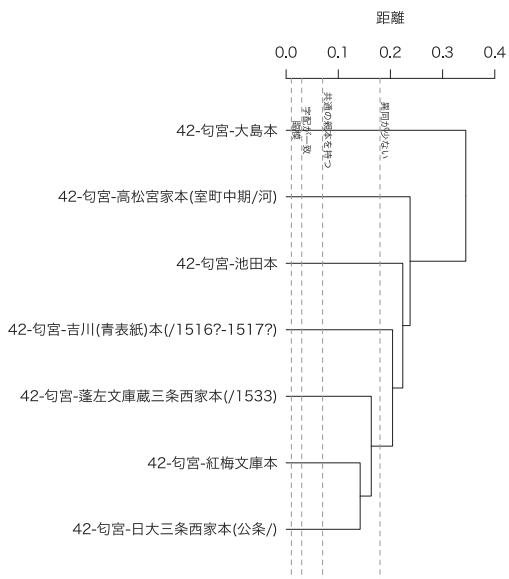


第四十一帖「幻」



- 蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。
- 吉川本と大正大本は異同が少ない距離にある。

第四十二帖「匂宮」

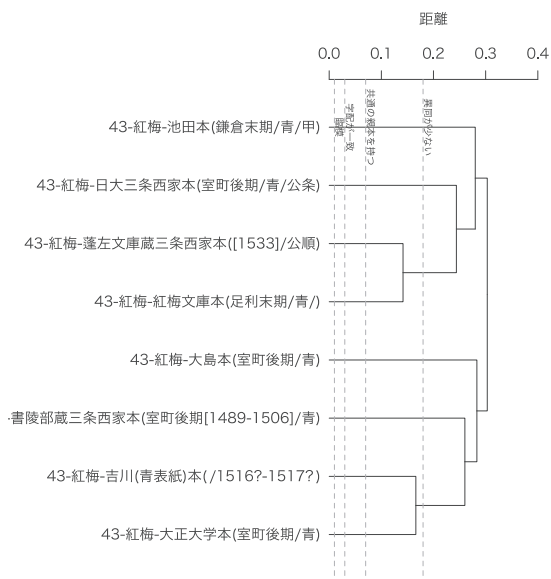


- 紅梅本と日大本、蓬左本は異同が少ない距離にある。

Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け (3)

- ●

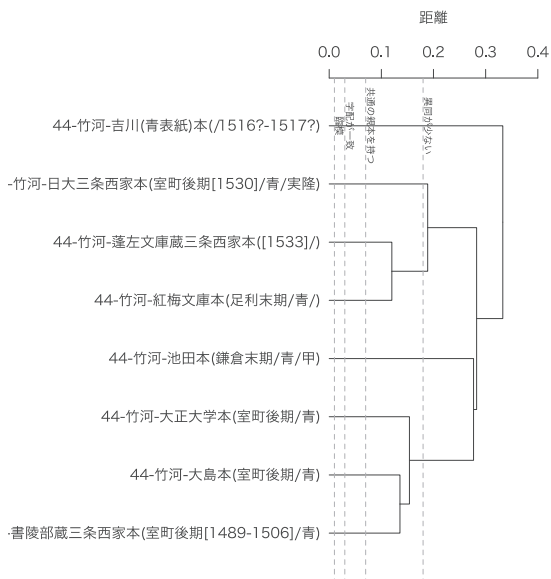
蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。  
吉川本と大正大本は異同が少ない距離にある。



第四十三帖「紅梅」

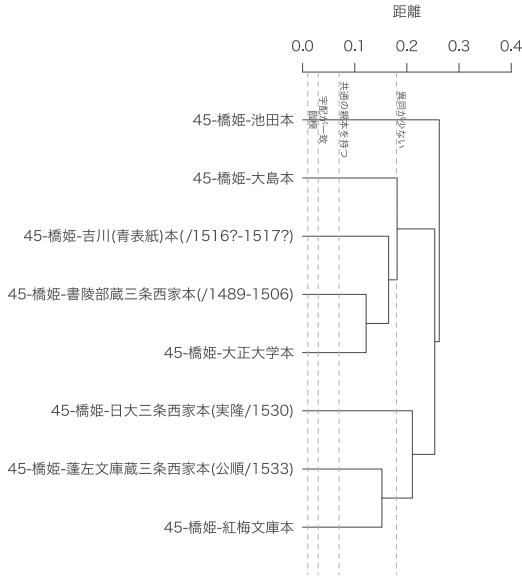
- ●

蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。  
大島本と書陵部本、大正大本は異同が少ない距離にある。



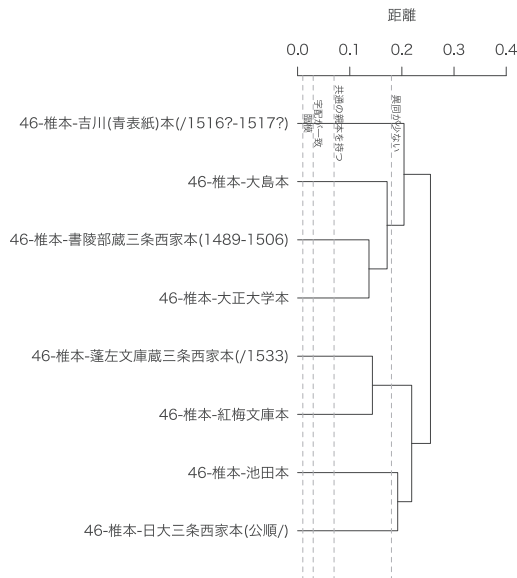
第四十四帖「竹河」

第四十五帖「橋姫」



● ● 書陵部本と大正本、吉川本は異同が少ない距離にある。  
蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。

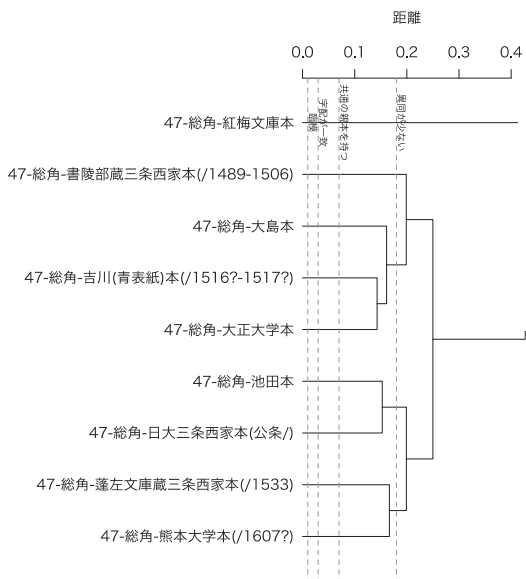
第四十六帖「椎本」



● ● 書陵部本と大正本、大島本は異同が少ない距離にある。  
蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。

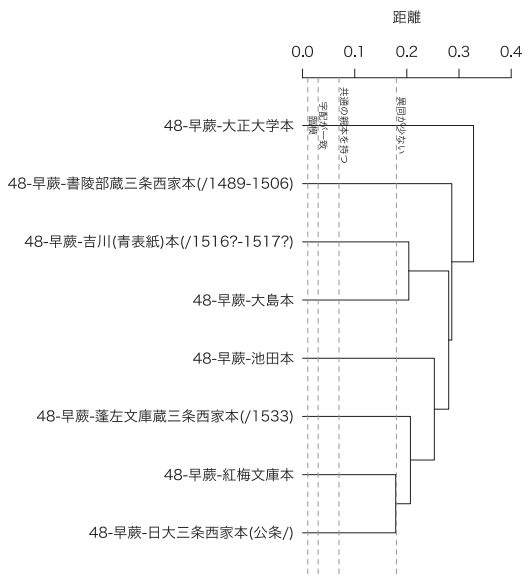


- 紅梅本が存在しないため熊大本を参考に用いている。
- 吉川本と大正大本、大島本は異同が少ない距離にある。
- 池田本と日大本は異同が少ない距離にある。
- 蓬左本と熊大本は異同が少ない距離にある。



第四十七帖「総角」

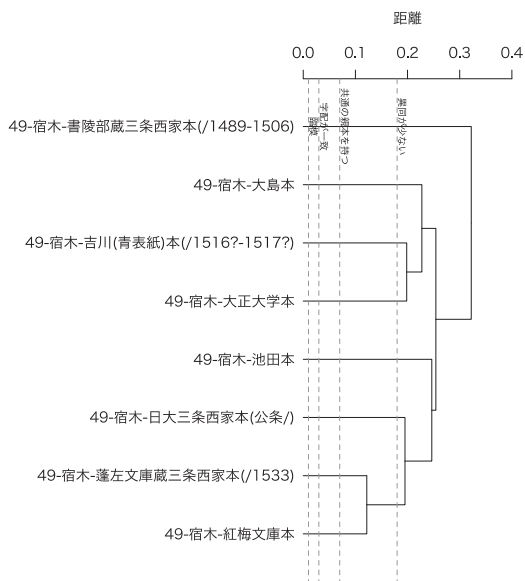
- 紅梅本と日大本は異同が少ない距離にある。



第四十八帖「早蕨」

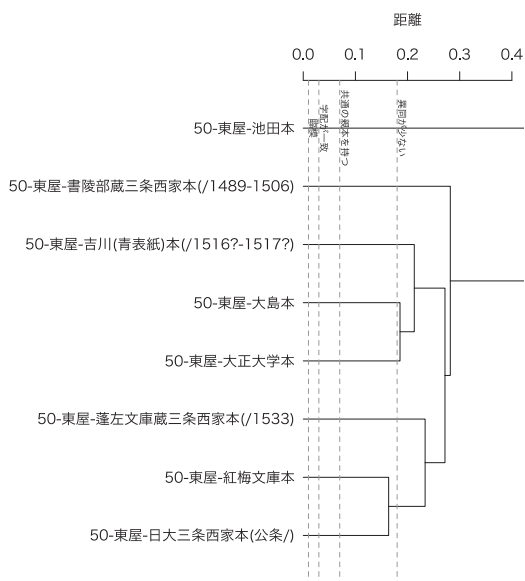
第四十九帖「宿木」

● 蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。

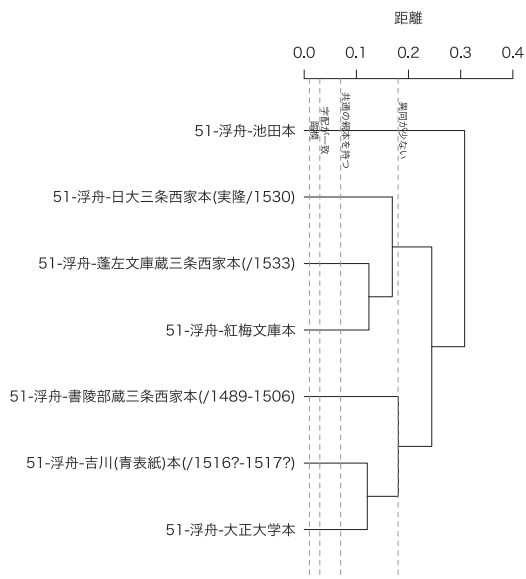


第五十帖「東屋」

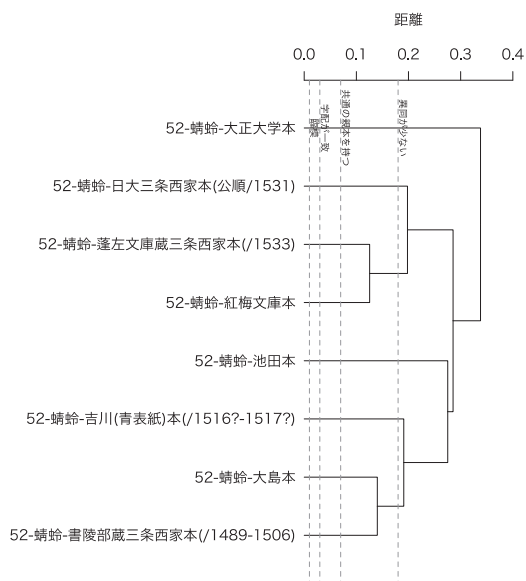
● 紅梅本と日大本は異同が少ない距離にある。



● ● 蓬左本と紅梅本、日本本は異同が少ない距離にある。  
吉川本と大正大本、書陵部本は異同が少ない距離にある。

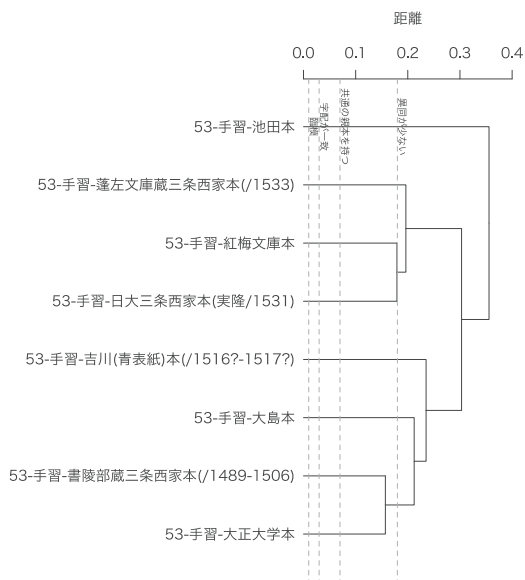


● ● 蓬左本と紅梅本は異同が少ない距離にある。  
大島本と書陵部本は異同が少ない距離にある。



第五十三帖「手習」

- ● 紅梅本と日大本は異同が少ない距離にある。書陵部本と大正大本は異同が少ない距離にある。



第五十四帖「夢浮橋」

- ● 蓬左本と日大本は異同が少ない距離にある。吉川本と書陵部本は異同が少ない距離にある。

